



Lee Jeong Mi

李政美いのち のうたライブ

心のまんなかからあふれだす言の葉が
すべてのものに宿る音 つかまえてくるように
真実の歌 生まれますように
ほんとう

小さきものの悲しみ 弱きものの痛み
傷ついた大地の上に きれいな花咲くように
声よ 染みとおっていきますように

この声 かもっと深く響きますように
この声 かもっと軽やかに踊りますように
この声 かもっと自由に羽ばたきますように

あなたの心にそっと届きますように

「ねがい」作詞作曲 李政美



李政美 (いちょんみ/Lee Jeongmi)

済州島生まれの両親のもと、6人兄弟の末っ子として東京・葛飾で生まれ、歌が大好きだったアボジ(父)が歌う韓国歌謡曲を聞いて育つ。オペラ歌手を夢見て、民族学校から国立音楽大学声楽科に進む。音大在学中に朝鮮の伝統音楽、世界の民族音楽に興味を持ち、朝鮮民謡、フォークソング、フォルクローレなどを歌いはじめる。その頃発表した音源に「セヤセヤ(鳥よ鳥よ)」、「キムミンギを歌う」等がある。その後、子育て・充電期間を経て'94年に屋久島に住む詩人・山尾三省と出会い、彼の詩「祈り」に曲をつけて歌ったのをきっかけにオリジナル曲をつくりはじめ、現在はオリジナルを中心にジャンルを超えた幅広いレパートリーで、ライブ、コンサートを展開している。2003年には韓国・ソウルで初のコンサートを実現し、韓国の聴衆を魅了。心にしみとおる深く透明な声は、日本全国および韓国の根強いファンに支えられている。

最近では、フリージャズピアニスト・板橋文夫とのデュオや、朝鮮の民謡・童謡・歌曲・歌謡曲を編んだ「故郷の春コンサート」を成功させるなど、新たな境地を拓いている。

<http://leejeongmi.com>



矢野敏広 (やのとしひろ)

北海道網走市生まれ。中学時代にフォークソングの洗礼を受け、高校卒業後上京、ライブハウスを中心に活動を始める。1980年、朴保(パクボオ)&切狂言(きりきょうげん)に参加。現在に至るまでギタリスト、マンドリン奏者として李政美、趙博(チョウバク)、盧佳世(ノカヨ)、キムドゥスと共にライブを行っている。2012年4月、ボーカルのnoburoと結成したグループ「うまかしゅう」として、CD「きらめく星座のように」を発表。2013年3月には、韓国の国民的歌手・張思翼(チャンサイク)の名古屋コンサートにおいてサポートを務め、ブルージーな矢野スタイルの真骨頂を発揮、絶賛を博す。

最近では、昭和歌謡を題材に、ソロ・ボーカリストとしても活動中。

<http://www.umacasyu.com/>



月ヶ瀬・森の茶論 (つきがせ・もりのさろん)

13年前、旧月ヶ瀬村に移り住み、食料とエネルギーの自給を目指した農的暮らしを営む猪飼夫妻の生活拠点には、ふたりの人柄とスローライフに惹かれる人々が集う。木々に抱かれた家は、太陽光の発電システム、テラコッタタイルの土間、太い梁と漆喰の壁が気持ちよい吹き抜けがあり、薪ストーブのやわらかな暖かさに包まれている。

過去のライブでは、いちょんみの歌声に誘われた小鳥たちが一緒にうたっていたことも。

<http://morisaron.exblog.jp/>

